

芝生の校庭なら 子供たちが裸足で安心して活動できます

～地域が支える小平市立小平第十三小学校の校庭芝生化

東京都では、「10年後の東京」の計画に基づき、公立学校の校庭の芝生化を推進しています。芝生化された学校では、子供たちが怪我の心配をしないで思いっきり活動することができるため、心身ともに丈夫で健康的な学校生活を送ることや、自然環境に対する感性の育成やヒートアイランド現象の緩和などが期待できます。

芝生化された学校では、芝生の校庭の積極的な活用や維持管理など、それぞれが工夫を凝らしながら取組を進めていますが、今回紹介する小平市立小平第十三小学校（大中勲校長）では、学校や芝生の専門家だけでなく、地域や保護者の方々が子供たちの環境を豊かにしたいという思いで積極的に関わっています。

小平第十三小学校は、平成17年度に芝生化の施工が行われました。1年後には一部芝生の不具合が生じましたが、小平市にグラウンドがある縁で「FC東京」の協力の下に専門家のアドバイスや、保護者や地域の人たちで組織された「芝生サポーター」の協力を得て芝生の安定的な維持等を行うことが可能になりました。平成20年7月には芝生面積を拡大し、全面芝生化（3,600㎡）になり現在に至っています。



大中校長先生に校庭の芝生化についてお話を伺いました

- ・芝生化したことで、思いっきり外で遊ぶ児童が多くなり、足が速くなったと話す子供が多くなっています。怪我の心配が少ないので、運動会では教職員・児童とも裸足で全種目を行うなど、芝生の良さを積極的に活用しています。
- ・地域との連携がスムーズに進むよう、校内分掌組織に芝生主任を位置づけて、FC東京のグラウンドキーパーや芝生サポーターとの連携を密にしていますが、地域の方々も積極的に活動に参加していただいているので大変助かっています。
- ・傷みやすい芝生の外周部などは児童が「ポット苗」を学校で育てて補植するなど、子供たちも一緒に活動をしています。
- ・芝生をきれいにしてくれるサポーターの姿を見ている子供たちが、いつか大人になったときに、地域で学校を支えていこうという気持ちになってくれることを期待しています。

おそろいのユニフォームで、さっそうと芝刈り!

現在はFC東京のグラウンドキーパー、芝生サポーター、学校が一体となって芝生の維持管理等を行っています。

FC東京のグラウンドキーパーの方が維持管理の全体計画や専門的アドバイスをサポーターや学校の関係者に行い、日常の手入れは芝生サポーターが担っています。冬場を除き週3回（月、水、金の午後3時30分から午後4時30分まで）、乗用芝刈機で作業を行っています。芝刈機での作業のため子供たちへの安全確保も重要な役割で、サポーターが細心の注意を払って活動しています。



芝生サポーターの中心メンバー 寺戸さん、島山さんに 芝生の活動についてお話を伺いました

- ・芝生サポーターの登録者は10名で、活動日には毎回3名を確保して活動していますが、人数が揃わない時は学校に協力を求めることもあります。
- ・芝生サポーターは緑の芝生に映えるおそろいの赤いTシャツを着て活動しています。同じユニフォームを着ることで仲間意識を高めるのに効果的だと思います。
- ・「週3回も大変ですね。」という声も聞きますが、無理をしないで、自然体で行っています。この活動で人とのつながりも広がるなど楽しいことも多いです。協力していただいているFC東京さんの期待に応えたいと思いますし、なにより、子供たちが生き生きと遊ぶ姿を見たり、作業後のきれいな芝生を見たりしたときの達成感が良いですね。
- ・今は、児童の母親が中心になって活動を行っていますが、今後は、父親や土日のスポーツ団体の協力などを得られる仕組みをつくって多くの方々に芝生の活動に参加してもらえるようにしたいと思います。